



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録

対象：日本語弁論大会成績優秀者（米国）・日本語学習者（カナダ）

1. プログラム概要

米国及びカナダから大学生 21 名が 2020 年 1 月 8 日～1 月 15 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：10 名

カナダ：11 名

【訪問地】

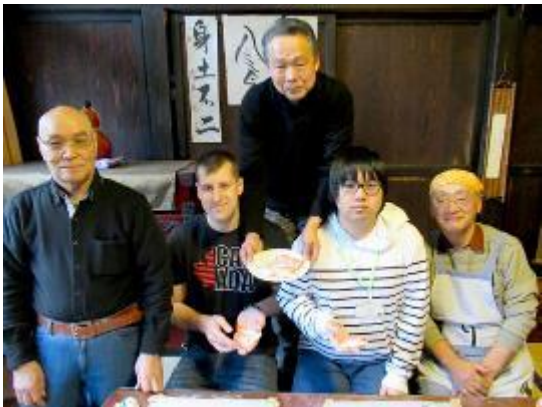
東京都、山形県

2. 日程

1/8(水)	【来日】
1/9(木)	【オリエンテーション】 【視察】皇居 【学校交流】東京大学
1/10(金)	東京都から山形県に移動 【学校交流】山形大学
1/11(土)	【表敬訪問】中川 勝 米沢市長 【視察】上杉博物館・上杉神社 【視察】東光の酒蔵 【文化体験】笹野一刀彫 お鷹ぽっぽ絵付け体験 【ホームステイ対面式】
1/12(日)	【ホームステイ】
1/13(月)	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備）】 山形県から東京都へ移動
1/14(火)	【成果報告会】 【視察】千葉工業大学東京スカイツリータウン®キャンパス 【視察】東京スカイツリー展望台

	【表敬訪問】西村 明宏 内閣官房副長官
1/15(水)	【視察】浅草寺・仲見世 【視察】秋葉原 【離日】

3. プログラム記録写真

	
1/9【学校交流】東京大学	1/11【視察】上杉神社
	
1/11【文化体験】笹野一刀彫 お鷹ぽっぽ絵付け体験	1/12【ホームステイ】
	
1/14【成果報告会】	1/14【表敬訪問】西村 明宏 内閣官房副長官

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 学校交流は、とても印象的で、自分と同年代の日本の若者たちがどのような意見を持ち、生活しているかを理解することができました。例えば問題点についてインターネットでこういったことを検索するのも一つの方法ですが、実際に日本の学生と話すことは、深い理解につながり、日本人との関係も築くことができると思います。特に山形大学ではマシュマロを重ねるアイスブレイカーなどで交流を楽しみ、未来の翻訳機器などについてのディスカッションをしました。言語や文化が違って、共同作業する方法があることをこの体験から学びました。ホームステイと米沢の滞在は、目から鱗の体験でした。日本人の日常生活を垣間見るのが楽しかったです。混雑した観光地よりも、日常の温泉や家族とテレビ（相撲、バラエティショー）を一緒に見たりすることが楽しみでした。日本は忙しい街というイメージにとらわれず、田舎ではゆっくりとしたペースで、温かい生活を送っている人たちを見ることができて良かったと思います。伝統的な日本を見ることは、最も関心のあることでした。私は、体験型アクティビティが好きなので、ハンカチの紅花染や、一刀彫のお鷹ぼっぼの絵付けを心から楽しみました。見るだけでなく、歴史や伝統に触れたいのです。本当にこのプログラムに参加できて良かったです。たくさんのかげがえのない思い出ができ、多くの人との出会いがありました。このプログラムから得たことを、言葉で言い尽くすことは難しいのですが、私の生涯のなかで最高の体験の一つだったことは間違いなくと思います。この思い出を一生の宝物としたいと思います。皆さんの優しさと温かさに感謝しております。

◆ ホームステイは、最も面白く、忘れがたい思い出の一つとなりました。実際に日本の生活を体験でき多くの事を学ぶことができました。ホストファミリーが連れて行ってくれたどんど焼きは、とても心に残る行事でした。他宗教の儀式を間近に見ることができたのは感動的でした。食べ物も印象的だったものの一つです。私は、もともと日本食が好きでしたが、日本食がこんなに美味しく、手の込んだものであることがわかったのは、滞在中のこの1週間でした。食べ物に関しては、これほど健康的な食生活を送ったことはこれまでないと思います。上杉神社への訪問は、決して忘れることができません。私は、これまで神道に関心をもっていました。ついに実際に神社に行くことができ、感無量でした。どんど焼きを見ながら感じたように、私のこれまでの神道に対する理解はだいぶ違ってたと改めて認識しました。その他に気づいたことは、日本が環境保全に真剣に取り組んでいることです。東京から米沢まで新幹線に乗った際に、屋根の上にソーラーパネルを乗せた家をたくさん見ることができました。地方都市でさえも同じでした。山形大学で学んだように、他国も日本を見習い、環境への解決策を探るべきだと思います。体験型ワークショップは、とても面白かったです。本物のお鷹ぼっぼを見ることができ、とても嬉しかったです。紅花染は、技術進歩の著しい今日でも、この地域で生き残っています。日本は、先端技術が発達している一方、伝統芸術や古い建物も保存されており、その両者のバランスがよく取れていると思います。

◆ ホームステイは、私にとって最も印象的なプログラムでした。私たちは、米沢の古民家孫太郎に滞在しました。これは、100年以上に渡って継承されてきた伝統的な民家

です。そこでは、3世代以上に渡って受け継がれ、大切に保存されてきた数々の伝統工芸品を拝見することができました。また、毎朝、神様とご先祖様が祭られている神棚を拝むなど、ホストファミリーと行動を共にしました。また私のホストファミリーは和菓子作りを体験できるように職人さんを家に招いてくださいました。和菓子は、もちろんおいしかったですが、それ以上に伝統的な職人技を体験できて、面白かったです。ホストファミリーと現代と伝統的な生活様式の違いについて話し合いましたが、今の若い人達の生活が、より便利になっていることに心配をしていました。現代では、食料品の入手が便利になったが、多くの食品は全く健康的ではないと。日本人の強い精神性は、昔ながらの食事から生まれており、そしてこの伝統食こそが、日本人の生き残りの精神を象徴している、とおっしゃっていました。上記のようにホストファミリーとは新鮮で、興味深い意見交換ができ、彼らの観点から物事を見る機会が与えられました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学校交流参加学生

カケハシ・プロジェクトの交流会に参加させていただき、アメリカ・カナダの学生の皆さんの言語習得に対する意識の高さに刺激を受けました。幅広く興味を持ち、専門分野以外の多くの武器を持っている方々を目の前にし、自分次第でどんどん世界を広げられるのだということを改めて教えていただきました。その言語習得の意識の高さはディスカッションにも表れていました。10年後のコミュニケーションツールについて意見を交わしている中でアメリカの学生から「言葉の壁は技術で乗り越えられるけれど、コミュニケーションの中で互いの文化を尊重する気持ちは忘れてはいけない」という意見があがりました。コミュニケーションの本質を突く意見で、言語を習得したあと、たとえば英語を使ってだれと繋がるか、その人とどう関わるかを改めて考えさせられるきっかけとなりました。このような機会を準備してくださった方々に感謝申し上げます。

◆ ホストファミリー

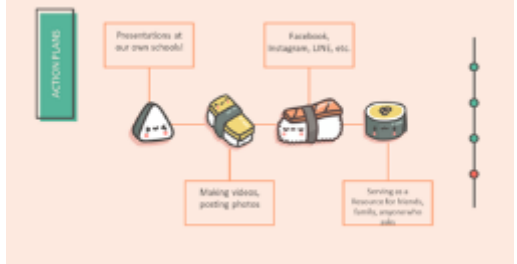
今回は、なめした山ぶどうのつるでストラップを作る体験を行いました。とても楽しそうに納得するまでがんばって作っていて、とても充実した体験でしたと言ってもらい本当に嬉しかったです。日本の箸をウッドバーニングでプレゼントしたらすごく喜んでくれました。

6. 参加者の対外発信

 Hanna Garner • Kakehashi Project 2019 Do you know the ABCs of Yonezawa? A = Apples 🍏 Yamagata Prefecture is also famous for pears 🍐 and cherries 🍒, but in Yonezawa crisp and delicious apples are a popular delicacy! B = Beef 🥩 Yonezawa Beef is considered one of Japan's top 3 famous beefs along with Kobe Beef and Matsuzaka Beef. C = Carp 🐟 The food culture surrounding Kai (鯉) was supposedly started by Uesugi Kenshin as a source of protein during wartime. We tried sashimi! Yum 🍴 #JCE #Kakehashi2019 #Kakehashiward	 chikarapersaud Yonezawa, Yamagata 1/10 Liked by felicia_yue chikarapersaud Yamagata, Japan. I've always been more fond of the country side than big cities and I
米沢市についての発信 (Facebook) 皆さんは米沢のABCを知っていますか？ Aは、りんごです。山形県は、洋ナシとサクランボが有名ですが、米沢では、シャリシャリしたおいしいリンゴが名物なのです。 Bは、ビーフです。米沢ビーフは、神戸牛、松坂牛とともに日本の三大和牛と言われているのです。 Cは、鯉です。鯉の養殖は、戦国時代、上杉謙信によって、たんぱく質補給を目的に始められたようです。刺身を試してみました。おいしいです。	山形県についての発信 (Instagram) 山形，日本。私は，常に都会よりも田舎が好きでした。そして山形でも同じように感じました。美しい神社，温泉，親切な人々。私が滞在したホストファミリーは，素晴らしかったです。食べ物から，おもてなしの心まで，これ以上のものは望めません。カケハシ・プロジェクトに参加できて本当に良かったです。

	 Liked by _keetm3 and 26 others breecrvz With this, my stay in Yamagata is completed!! ❤️ It was a great change of pace from the usual city life. I definitely will come back again 🙌 especially for the gyouza (the best I have ever eaten in my life. Bet, I could eat 1000) #kakehashi2019 #jice #kakehashiaward #japan
どんど焼きについての発信 (Instagram) どんど焼きは 1 年に一度開かれますが、それが今日、米沢でありました。お正月飾りを焚き上げたあと、大きな焚火でもちを焼きます。もちを食べるとその年は、健康でいられるそうです。	山形県についての発信 (Instagram) この体験で、私の山形の滞在は完結しました。普段の都会の生活から、暮らしのペースが劇的に変わりました。何よりも餃子を食べるためにまたここに戻ってきたいです。(餃子は、人生で一番美味しかったです。1000 個くらい食べられるかもしれません)

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	Plan 1: Japanese Enthusiastic Language Learning Organization (JELLO) • Why? • When? • By whom? • To whom? • What?
アクション・プランの発表（米国） ・ 授業でカケハシ・プロジェクトについて発表する。 ・ ホストファミリーが経営するエアビーアンドビーで、米沢観光とビジネス振興をする。 ・ 大学のプログラム別に行っているクラスで発表する。 ・ 大学の日本語クラスで発表をする。Facebook で数か月間、日本の様々なトピックについて発信する。	アクション・プランの発表（カナダ） ・ Facebook グループ、日本クラブでプレゼンテーションや写真等の掲載をする。オタワ大学とカールトン大学の日本クラブが協力して行う。 ・ ヒューロン大学、「Rough Park Press」のアート/文化担当編集者である David が Rough Park Press のウェブサイトで、今回の経験の記事を書き、共有する。また、その年のまとめの記事が掲載された際には、紙媒体で提供する。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 1 月 26 日，大学で 20 分の発表をする。・ 日本クラブで発表をし，スピーチコンテストを広める。・ 海外留学，日本で生活すること，スピーチコンテストについて，発表をし，わかりやすいビデオを作成する。・ ブログで旅行，食べ物，様々な文化の側面について投稿し，ソーシャルメディアで日本の観光について発信する。それを通して，友人や家族に日本や日本文化についてもっと学んでもらう。 | |
|--|--|